



前橋育英高校報

発行
前橋育英高等学校
合同紙広報委員会
前橋市朝日が丘町13
TEL027-251-7087
FAX027-252-9419

印刷
株式会社 ヤマザキ
高崎市中豊岡町483-8

主な内容

- 2面 平成16年度生徒募集 他
- 3面 スポーツの活躍 他
- 4面 保護者会だより
- 5面 保護者会だより (進路講演会他)
- 6面 同窓会だより
- 7面 同窓会だより (私の近況報告)
- 8面 後援会だより

『建学の精神』

正 直
純 潔
無 私
愛

「輝かしい未来展望」を求めて

理事長 中村 義寛



今年は十年ぶりの冷夏となり、照りつける夏の日差しが少ない

七月、八月でした。そんな中、前橋育英高校硬式野球部は、第一シードとして夏の高校選手権群馬県大会に臨み、着実に勝利を積み重ねて準決勝に進み、桐生一高と死闘を繰り広げ、ほぼ手の中にしていた勝利を逃し、悔し涙を吞みましたが、選手たちは

「充実の夏休み」近況報告

学園長 中川 豊美



今年の夏休みは前半が酷暑で、後半は冷夏という大変不順な天候で終わりました。その前半では、まず甲子園出場を賭けた硬式野球県大会がありました。春季優勝の余勢を駆った野球部は順当に勝ち進み、準決勝の桐生一高戦でも一旦は逆転し、九分九厘勝利を手中に収めたかと思われましたが、再逆転され惜敗しました。しかし甲子園での桐生一高の活躍を見ますと、本

校野球部のレベルは全国的であると強く感じ、この悔しさを是非後輩に託してほしいと願います。決意した次第であります。

本当に頑張りと、深い感動を与えてくれました。また、県高校総体においては、五年連続十二回目の男子総合優勝を成し遂げ、優勝種目の数では昨年を下回ったものの、それぞれの部が力をつけた成果が出た優勝でした。

さて、本校は、群馬英数学館を源として、創立者である中村有三元理事長によって昭和三十八年に男子校としてこの地に創設され、その三年後には男女共学となり、様々な変遷を経て今年で満四十年を迎えました。

私学にはおのずから抛つて立つ「建学の精神」があり、本校では、常に国際的視野に立つて、「正直・純潔・無私・愛」を道義標準を基に、すべての人々と調和し、世界の平和に貢献できる人間の養成を目標とし、知育・徳育・体育のバランスのとれた教育を実践してきました。

その実績を礎として、本校が私学としての独自性を活かし、今以上の大学進学率向上に伴う進学実績の強化、部活動の強化、カリキュラムにより一層の特色を持たせること、施設・設備の充実など、様々な観点からの将来計画を策定し、輝かしい四十五周年、更には五十周年を迎えるための、将来構想を考えていきたいと思っております。

サッカー専用人工芝グラウンド建設予定!
前橋育英高校サッカー部に念願の人工芝グラウンドが本年度完成予定。
場所は高崎インター近く。公式戦も可能なグラウンドです。ご期待を!!

平成16年度生徒募集

教頭 高田 孝

昨年の生徒募集は、体育科が定員確保、保育科が定員不足でありましたが、普通科が大幅に定員を上回り、特に特進クラスが二学級増のスタートとなりました。

【募集内容】

募集定員を変更しました。普通科、体育科は昨年と同じ募集定員ですが、保育科は十名少なくなっています。ここ数年、定員を割ることが多いことと、実習など専門科目は、少人数の方が効率が良いことなども合わせて定員減としました。

普通科の募集については特に細心の心配りをしたい。特進のクラスは三年連続のオーバーで、選択教室を代替えて学級教室としています。何としても、定

員を厳守しなければなりません。

【募集要項(概要)】

- 一、募集定員 合計五百十人
- 普通科 男女 三百六十人
- 特進コース 百六十人
- 進学コース 二百人
- 体育科 男子 八十人
- 保育科 女子 七十人

◎特待生および推薦試験

- 試験日 特待生 一月十八日
- 推薦 一月十九日
- 合格発表 一月二十三日

◎一般試験

- 試験日 二月二日(学力)
- 合格発表 二月五日

※詳細は募集要項をご覧ください。

学校ホームページ <http://www.maebashi-uei-h.ed.jp/index.htm>

育英高校の所在地で地元、朝日が丘町自治会の今年度の役員皆さまです。

会合をとおして意見交換をしたり、土曜講座を見学してもらったりと地元の方のおつきあいを通じて相互理解を深めております。

朝日が丘町自治会 役員		
会長	鈴木 漸	
副会長	河崎 清松	
副会長	下畑 昭枝	
書記	中野 利一	
計査	青木 時男	
監査	斉藤 広孝	
1組 組長	吉田 正夫	
2組 組長	伊藤 達夫	
3組 組長	中野 利一	

みんなの笑顔が宝物

佐鳥 千秋(三一)

私は今年「ぐんま少年の船」に参加しました。群馬県の小・中・高校生が船で共に生活をし、集団生活を学ぶ北海道への船の旅です。船の生活では、洋上オリピック、上陸活動、さよならパーティー等、いろいろな企画に参加しました。どれもが忘れられない思い出となっています。そんな思い出が作れたのも総勢六百名あまりものすばらしい仲間たちのおかげです。団員の中には障害を持っていた子供達も参加していました。車イスに乗っている子供達や、

知的障害をもつ子供達もいました。私は、養護学校に通っている女の子と多く接する事ができました。彼女は歌が大好きで、いつも大きな声で歌います。五日間の旅の中で彼女をみんなで支え一緒に行動し、友達になりました。お別れパーティーでは彼女は最高の笑顔をみせてくれました。人はそれぞれ違います、障害を持つている人も私達も同じ気持ちで行動し、お互いに学びあい、ふれあう事で相手の心を知ることができると思います。人はふれあう事なく人を外見で判断しがちですが、それは自分の視野を狭めている事に気がつくきました。

五日間の旅で、子供達をまとめる事の難しさや不安もありましたが、仲間と協力して乗りこえられました。最後はみんな笑顔でした。私にとつてぐんま少年の船は大切な思い出です。みんなの笑顔は最高の宝物です。

『ぐんま少年の船』に参加して

星野 明有美(三一)

私はぐんま少年の船に参加してたくさんを学びました。特に勉強になったことは、物事は自分から進んで行わなければならないということ。班の中で最年長だったので班長になりました。私は初対面の人や人前で話したりすることはあまり

リフレッシュされた教室で!!

事務局長 根岸 豊年

本年は創立四十周年にあたり、予算編成時から環境整備事業を推進し、直接生徒に還元したいという方針で教室及び特別教室の本格的な改修工事を夏休み中に実施しました。

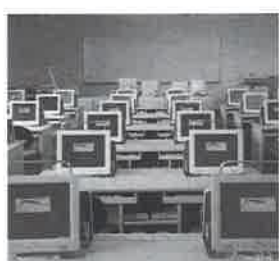
室内の塗り替え・黒板の交換・教壇の補修・クロスの張り替え・照明のアップ等々、晴天に恵まれない今年の冷夏に悪戦苦闘しながらもどうにか授業が始まる

前には工事が終了しホッとしました。しかしシックハウス症候群の影響を気にしながら時々生徒に臭いは...眼はチカチカしない...? その様な問い掛けをしています。今のところその様な症候は出ていない様ですので安心しております。来年の工事もやはり生徒に直接関係が有るトイレの改修工事を「明るく・きれいで・バリアフリー」予定しております。理想的な校舎群の中の教室とゆとりのスペース、生徒が終日教室で授業を受けるわけですが、休み時間教室以外の場所ですっぽりと落ち着けるスペースが是

非必要だと思います。しかし既存の建物にそれに対応して行くには建築上の色々の制限が有りますが、既成事実にとられない幅広い観点から的をしばつて行くしか有りません。将来それが必ず生きてくるといふ強い信念に基づいた思考が必要。まずは新装なった教室を見渡しなが、今からあれこれと模索しています。

マルチメディア教室誕生!

新教育課程に対応できる情報処理教育環境を充実するため、古くなったL教室をリニュー



人事異動

平成十五年十月一日付
昇格 副校長
小茂田恵三(教頭)

り好きではありませんが、班員をまとめたり、日程を説明するために大きな声を出し、点呼をと、普段だったら絶対に自分からはしないことも、ぐんま少年の船では出来ました。最初は、あまり人をまとめたことがなかったので小さい声しか出ず、集合の時などに私の指示通りにまとまらず大変でしたが、ぐんま少年の船でのカリキュラムをこなしていくうちに班員と仲良くなり、私の気持ちをわかってくれたのか、私の言う事を聞いてくれるようになりました。このことは私の苦手克服への第一歩になりました。ぐんま少年の船での体験を今後に生かしたいと思います。

スポーツの結果

広報室次長 湯本 俊明

◆インターハイ◆

水泳部 飛び込み学校対抗戦 準優勝

個人入賞

高飛び込み二位、板飛び込み四位
 水泳 二百mバタフライ六位
 二百mバタフライ八位
 ボクシング ミドル級九位

須田 恭介
 山口 一郎
 吉井 正和
 坂田 勇歩

「長崎が君の鼓動で熱くなる」をスローガンに高校スポーツ最大の祭典、平成十五年度全国高等学校総合体育大会（通称インターハイ）が八月、長崎県を主会場として開催された。

本校からは八クラブ、三十八名の生徒が激しい予選を勝ち抜き、群馬県代表として出場した。今年も各クラブともに全国の強豪校を相手に活躍がみられたが、特筆すべきは高飛び込み二位、板飛び込み四位と二種目で入賞し、飛び込みの学校対抗戦・準優勝に導いた水泳部の須田恭介君である。また、競泳では二百mバタフライで山口一郎君が六位、吉井正和君が八位とダブル入賞を果たした。ボクシングでは坂田勇歩君が二年生ながら九位（ベスト16）と大健闘。来年に期待がもてる。

そのほかの結果については例年以上に苦戦したが、全国大会でのコンディショニングやメン

タル面でのトレーニングなど各部とも今後取り組むべき課題が決して少なくないことが明らかになった大会となった。以下、インターハイでの各部の成績を列記する。

【陸上】

根岸佑弥（三―A）走高跳十四位。宮崎翔太（三―A）青木和彦（三―A）大和裕（三―B）谷口慎也（二―A）児玉大樹（一―A）宮沢大吾（一―A）四×百mリレー出場。宮下圭太（三―B）木村哲也（二―A）八百m出場。

【ボクシング】

坂田勇歩（二―二）ミドル級九位（ベスト十六）。

【フェンシング】

団体出場
 大山裕輔（三―A）石坂守人（三―A）個人フルール出場、遠山仁幸（二―B）個人フルール出場、樋田鷹也（二―B）高野亮（二―B）

【ウェイトリフティング】

堀口康文（三―A）六十九kg級出場。小林政幸（三―六）百五kg級出場。大山恵理（二―七）六十三kg級出場。

【なぎなた】
 福田佳小里（三―二）個人出場

【自転車競技】
 渡辺将大（三―B）ポイントレース・個人ロード出場。寺田紘也（三―一）ケイリン出場。池田諒（二―一）エリミネーション・個人ロード出場。飯塚航（二―一）四km速度出場。吉

◆第58回国民体育大会◆（わかふじ国体）

第五十八回国民体育大会（わかふじ国体）の夏季国体が九月十三日〜十六日、秋季国体が十月二十五日〜三十日まで静岡県にて行われる。本校からは次にあげる選手の出場が決定している。今年夏の関東ブロック予選で苦戦・敗退した競技も多かったため、例年より参加者が少なく、やや寂しいが、群馬県代表として激戦だった関東を勝ち抜いた、各競技における本校選手の活躍を期待したい。

◎夏季国体

【水泳】
 四名出場。山口一郎（三―A）吉井正和（三―二）島田康徳（一―二）須田恭介（三―A）

【サッカー】
 十名出場。横山智（三―五）石亀晃（三―A）小林竜樹（三―A）武

武惇（二―二）タイムトライアル出場。

【柔道】
 剣持勇生（三―A）個人百kg級出場。

【水泳】
 飛び込み学校対抗戦準優勝
 山口一郎（三―A）二百mバタフライ六位。吉井正和（三―二）二百mバタフライ八位。島田康徳（二―二）百/二百バタフライ出場。須田恭介（三―A）高飛び込み二位、板飛び込み四位。）

◎秋季大会

【陸上】 総監督 安達友信
 四名出場。宮崎翔太（三―A）木村哲也（一―A）是木滝彦（一―A）

【フェンシング】 少年監督 竹内英厚
 二名出場。石坂守人（三―A）遠山仁幸（二―B）

【ウェイトリフティング】 少年監督 原 徹
 一名出場。堀口康文（三―A）

【なぎなた】
 一名出場。福田佳小里（三―二）

【自転車競技】 成年監督 狩野良太
 二名出場。寺田紘也（三―一）池田諒（二―一）

二〇〇三年 日韓対抗学生自転車競技選手権大会

日本代表 岡希美（二―三）
 二〇〇三年十一月十日〜十四日 韓国 昌原市 昌原競輪場

人間味のある教師でありたい

新井 綾子（鬼石中出身）茨城大学教育学部 養護（保健）



私は大学のある茨城県水戸市に戻り、教員採用試験の準備にラストスパートをかけています。教育実習の折は、実習担当教諭として、心得も未熟な大学生の私たちを支えて下さって本当にありがとうございました。吉田先生の親身な対応のおかげで私をはじめ実習生全員が実習を通ず。

して自分の力をそれぞれの分野で発揮できたのではないかと思います。とにかく無我夢中の二週間でした。今、自分の実践の一つひとつを思い出し、生徒の一言一言をかみしめるにつけ、もつとこうすればよかったのに、と思うことばかりです。私は教師として高い教養にあふれた人間になりたいと思いますが、優しさや子どもへの愛情といった人間味のある教師でありたいです。

教育実習を終えて

鈴木 優一（群大附中出身）山梨学院大学法学部（公民）



今回の教育実習では「教えられる側から「教える側」に立つ機会を与えていただき、多くのことを学ぶことができました。二週間の経過が過ぎることができました。実習期間中、先生方の暖かい励ましや御助言が私にとって大きな支えとなりました。深く感謝申し上げます。

また、生徒たちの何げない言葉や表情までもが新鮮に感じられ、実習中、より一層教職に就きたい気持ちが強くなっていたのを覚えています。この二週間の経験は教職を目指す上でほんの小さな一歩かもしれませんが、スタート・ラインには立てたと確信しています。これからも教職志望という自分の目標に向かって精一杯取り組んでいきたいと思っておりますので、どうぞよろしく願います。

保護者会だより

涼しい夏が過ぎ、残暑の季節となりました。私が保護者会長に就任してから五ヶ月が過ぎようとしております。今年は前橋育英高等学校創立四十周年という節目の年を迎えました。何か記念行事でも企画してみようかなと思つてはみた

とらぬ狸の皮算用



保護者会長 佐田 知弘

が、これがなかなか難しい。とにかく全校で盛り上げられるものはないかと考えた時、甲子園がありました。【甲子園初出場】これは長年の悲願でもあります。幸い今年は春季群馬県大会で優勝し関東大会に出場、見事に一勝いたしました。これはチャンスと思ひ「もしかしら最大イベント」として今年の夏は大いに盛り上がるかもしれない、これに便乗しよう。」と大きな期待を膨らませました。

の決勝戦だと、誰もが思つておりました。試合が始まると案の定、体から汗が迸り、手に汗握る大接戦となりました。試合は

が一点リード、誰もが勝利を意識した時。結果は皆様ご存知のとおり、相手のチームが甲子園に行き、しかもベスト4に進出する大活躍をいたしました。私は、サヨナラのランナーがホームベースを駆け抜けた瞬間「負けたのかな、嘘だろう」と、一瞬目の前の光景に×印を付けたくなりました。今年のチームは素晴らしい仕上がりました。ここまで鍛えるのに監督、コーチ、選手全員がどれだけ血と汗と、涙を流し努力してきたか、想像すると胸が詰まる思いです。この硬式野球部というクラブ活動は、学校教育の延長であります。選手にとつてこの経験は、なにもものにも代え難い勉強

になったはずですが。それは、勝つて驕らず、敗者の痛みを分ける貴重な経験であります。私もスタンドから、このチームに惜しみない拍手を送りました。これが私にとつて盛大な創立四十周年記念事業となりました。保護者会も新体制がスタートし、半年が過ぎようとしております。この間、校内行事、校外行事と多数ありましたが、保護者会役員皆様の協力により今日までそれぞれの行事をこなすことができ、感謝申し上げます。今年十月二十五日(土)にバザーが控えております。今後保護者の皆様には、多大なご協力をお願いしなければなりません。よろしくお願ひいたします。

第53回 全P連大会参加報告

進路指導副委員長

福田 篤子

「羽ばたこう 未来を託す 若い芽よ」をスローガンに掲げ、全国PTA連合会兵庫大会に参加させて頂きました。神戸は大震災があつたとは、ほとんど見られないまでに復興し、活気がありました。

分科会「高校教育とPTA」では、基礎的な学力を身につけ、考え、自ら進んで行動でき、主体的に進路を決定できる力を育

てるといふ「生きる力」に、今PTAがどの様に関わっていくか、長崎県立青峰高校から、駿君事件のあの十四歳の家庭では、地域活動に参加した事がなかったというショッキングな話や、今でこそ親が地域行事に子供を連れ出したり、今の子供に不足しがちな人との出合いの場を、校内校外に作つてあげ、多くの体験を与えてあげようという、家庭教育がすべて教育の出発点から、家庭と学校、そして地域社会を結ぶパイプ役として「PTA活動」が重要という発表がありました。又、高校生による発表がすばらしく、チアリーダー



兵庫大会にて

イングリッシュやミュージカルに一生懸命にとり組み、輝いている子供達に深い感動を受け、涙が出てしまいました。最後になりましたが、この大会に参加させて頂きまして、ありがとうございます。

小倉百人一首競技 かるた団体全国五位



全国大会出場 一年 田島君

得地 民子

国語科教諭

夏の盛りの八月八日〜十日に行われた第二十七回全国高等学校総合文化祭の競技かるた部門で、一学年の田島祐介君が初の全国大会出場を果たした。県選抜チームは予選リーグで愛媛県栃木県、岩手県を次々に破り、決勝トーナメントへと進む活躍を見せた。しんと静まり返る四百畳の畳の上で、瞬間の判断を競う高校生達の姿は、隣接する文化ホールの大スクリーンにも映し出された。運営スタッフの地元福井県の高橋生達の生き生きした姿も印象的な三日間だった。

保護者会の 学校への参画

副会長 山口 孝子

社会状況が大きく変化する中で、今や新しい時代にふさわしく、多様なニーズに対応した学習機会の充実を図るなど、学校も改革を課題としてます。そして改革の為には、PTA自らの進化も求められるのでは

「ヒカルの碁」 囲碁同好会だより

部長

大塚 彰宗



我同好会は 一年生七名 二年生五名 三年生五名の計十七名で、初心者から二級ほどの実力者まで多様ですが

今年から顧問になられた神山先生は、将棋が強く(囲碁は初心者)、将棋を教わる生徒もいます。囲碁・将棋の両方を楽しめる同好会です。

ないでしょうか。事例を紹介しますと、学生食堂の経営・図書室の管理・等を実践している保護者会が、すでにあるのです。我々も、生徒の実力の伸長の為にも、学校と保護者会と一体となった運営をめざし、尚一層の保護者と生徒・教員が相互理解を深め、より好ましい信頼関係が生まれると思うので

進路講演会

保護者会・会計 加藤 圭子

子どもたちが、それぞれの夏休みを過ごし始めた七月二十五日(土)。視聴覚室には、午後二時より、たくさん保護者の方々が集い、進路講演会が開かれました。

公私には、小山 誠先生(東海大学)を迎え、「高校生をとりまく進路の状況」と題して講演していただきました。

そのお話の中で小山先生は、「将来、何をしたいのか。」をよく考え、夢目標を持たせることが

大学訪問『進路選択の参考に』

副会長(進路指導委員長) 横山 典広

本年度研修会実施について、進路指導委員会が主となり計画を進めてまいりました。「進学者が比較的多い県近郊の大学を」ということで、芝浦工業大学と東京国際大学に決定しました。芝浦工業大学は芝浦校舎と大宮校舎を持っていますが、工業部の一・二年生とシステム工学部の全学生が学ぶ大宮校舎を見学します。東京国際大学は二つのキャン

大事。その夢を達成させるためにはどんな進路を選択していくのか。専門学校においては、しっかり見極める必要があるとされ、日常生活においても、身仕度をきちんとする。授業をしつかり聞く。三十分間の家庭学習が大事と話してくださいました。そして、子どもが安心して前に進めるように、夫婦円満を心掛けてとユーモアを交えての楽しいお話でした。

パスを持っていますが、国際関係学部と人間社会学部の学生が学ぶ第二キャンパスを見学します。今回は、参加の呼びかけを一・二年生保護者全員に拡大しました。子供の進路選択の参考になれば、と有意義な一日と成る様にしていきたいと思えます。



吹奏楽



八月五日から十日にかけて、群馬音楽センターにおいて第四十五回群馬県吹奏楽コンクールが開催され、本校吹奏楽部は高校B組(三十五名以内)部門に参加し、見事第一位で西関

東大会への進出を果たしました。

本校吹奏楽部は昨年度より、元群馬交響楽団ファゴット奏者で、永年にわたり農大二高で指揮をされていた熊井正之先生を迎え、新体制下、初のコンクール出場となりました。いわば新生育英吹奏楽部のデビュー戦でこのような結果を残せたことは部員一人一人にとって大きな自信となると同時に、新たな歴史を自分たちが築いていくのだという高い目的意識に繋がってくれることと顧問一同確信しております。

そして、来る十月六日(月)、この一年の集大成とも言えるべき第三十回定期演奏会を、前橋市民文化会館において開催致します。新生育英サウンドを是非お聴きくださいませよう、関係者一同、心よりお待ちしております。

保護者会バザー

総務副委員長(副会長) 山田 洋子



日頃より保護者会活動に御理解、御協力を賜りまして厚く御礼申し上げます。さて、この度二年に一度実施される第十八回学園祭にあたり、生徒会活動の運営を補助する事を目的として、私達保護者会はバザーを十月二十五日、模擬店を二十四

日、二十五日に開催させていただきます。いただく事になりました。

本年度は前回を上回る目標を掲げ、保護者会役員が

一体となつてバザー成功の為に頑張っております。趣旨を御理解の上、保護者の方々はじめ学校、同窓会、後援会の皆様の御協力を役員一同心よりお願い致します。又、教員、保護者の趣味のものなどを、展示いたしますので是非出品して下さい。

尚、当日は多数の皆様のお来場を心よりお待ちしております。

第30回 吹奏楽部 定期演奏会

10月6日(月)開演PM6:00 於:前橋市民文化会館

輪読会

文化委員 重山 優子

昨年に続き、今年も八月十八日(月)に久保田先生を囲んで第二回輪読会が開かれました。今回は「うん。」のリズムという短い文章を読む事から始まりました。「うん。」という言葉の表現の違いから伺える今の子供達と自分達。沢山の意見が交わされ、有意義な、あつという間の二時間でした。参加者が保護者会の役員と三年生の父母という事もあり、最後は学校に対する意見の交換もありました。次回皆さんも参加してみてくださいませよう。

第2回 マナーアップに思う

副会長 山口 孝子

九月十七日朝八時から九時まで実施しました。交通量の多い登下校時は大変危険がともないます。ちよつとした油断がケガや事故にむすびつきます。

信号無視二人乗り、並列走行、斜め横断などはもちろんですが、余裕を持って行動したいものです。

自分のことは自分で守る時代だと思わざるを得ません。充分の注意をし、落ち着いた登下校をお願いします。周辺の皆様にご迷惑をかけず、明るいあいさつもして欲しいです。

前橋育英

雄渾

同窓会
だより

心の絆を大切に



同窓会長 関根 映一
(第一期生)

同窓会員の皆様、お元気でしようか。日頃より、母校発展のため、物心両面にわたりました。御支援をいただき、同窓会を代表して、御礼申しあげます。さて今年の夏は、長雨や日照不足の影響による農産物の不作、大型台風による災害等、日本列島

に大きな打撃を与えました。さらに又、経済の長期低迷や、凶悪犯罪の増加、少子高齢化の進行など深刻な諸課題に直面し、解決のための処方箋をみいだせない状況かと思えます。今こそ政治のカジ取りに期待するものですが、暗いニュースばかりで

はありません。我が母校育英高校は群馬の雄として、高校総体で優勝、インターハイでの活躍、硬式野球部の春の県予選の優勝、そして夏の甲子園への県予選会を応援させて頂きましたが、本当にあと一歩でした。残念でしたが、来年に向けて頑張つてほしいと思います。又同窓会役員総会では、校歌のCD作成報告、同窓会会館建設への促進等、出席者は少なかつたが、後輩のため、頑張りたいと決意しているところでありました。又本年は、我が同窓会副会長である佐田知弘君が、保護者会長に選任されました。大変喜ばしい限りであります。ところで新聞のコラムに掲載された孔子の逸話を紹介したい。弟子の子貢が、一生を通じて、大切なものを一言で言うならば何かと尋ねた。孔子は

「怒なり」（相手の立場に立つこと）と答えた。ちなみに、この言葉の後に「己の欲せざす所、人に施すこと勿れ」と続く。人はとかく自分という基準に他者を当てはめることが多い。他者の思いや、行動に心を傾けてみると、そこから新たな視点や心の絆が生まれるとありました。私は昨年夏、中国を訪問して参りました。最初の訪問は政治の関係、今回はビジネスです。原料の買付と技術指導でした。大恩ある中国で大いに学んで参りました。信義が大切、誠実が大切、友情が大切、を学びました。まさしく色々な意味で、NHKで放映された「大地の子」の様でありました。同窓会委員も、心の絆を大切に日々努力したいと考えております。

知産創育国家樹立へ



藤井 健也
(第一期生)
(経済産業省
大臣官房政策評価広報課)

あらゆる経済実態が混迷・混沌を極める中で、日本沈没への負のスパイラルを回避すべく、哲学・事業・対外構造の抜本的革新を基軸としたDNA配列革

命(負の配列から正の配列への配列交換)を実現するため、「知産創育」国家の創設という新たなパラダイムの導入及び「知の泉」作戦の展開による「知」のシナリオデザインマネジメントの創出並びに「産・学・診・

官・NPO」の五軸連携等による経営技術競争力強化を日本企業の再生・創造の処方箋として基幹エンジンに据えた「経営DNAフロンティア」を短期間にて上梓(日経工業新聞社)した次第であります。更に推進エンジンの一環であるマネジメントサービスサイドとクライアントサイドとの「共創・協働」の場を十七業種の機能支援強化を主軸としたプラットフォーム「知のユビキタス」



著書 (経営DNAフロンティア)

構想(経営支援産業協議会(仮称))として発足させるべくその地歩を固めております。一方、人生の良きパートナーである妻とは、今後共、共通の課題作りを目指して頑張っていきたいと思っております。

親子二代同窓生

発展する育英がうれしい

樋田 裕司
(第十七期生)



鷹也
(第三十九期生)



育英高校を卒業して二十年以上経ち、現在息子が育英の二年に在籍しています。私は今、住宅の外装工事をしていて、群馬県内を朝早くから夜遅くまでまわっています。私は野球部に所属していましたが、三年の夏の県予選で前商に負けたくやしさが記憶に残っています。今年の育英の野球部は素晴らしいチームだったので、準決勝でもう少しというところで敗戦したことは残念でなりません。息子も中学まで野球をしていましたが、育英でフェンシングをや

りました。高校からスタートしたので不利と思いますが、努力して個人戦でも良い成績を残してほしいと願っています。最近の育英は、サッカー部が全国的に知られるようになり、進学も実績が伸びて、育英に入るのがむずかしくなった、と聞くにつれて、発展する育英の姿がうれしくて、卒業生として胸が張れます。最後に三年間、担任として面白い話をしてくれたり、同時に怖い指導をして下さった須藤先生に感謝します。また、育英の運動部が益々全国で活躍することを、とりわけ野球部が甲子園出場する日を楽しみにしております。

秋季大会

対 健大	対 大間	対 桐生	対 高南
7-5	12-1	3-2	0-3
崎々	南工		



今夏、中毛リーグ優勝

私の近況報告

私が今あるのも育英のお陰

小林 裕孝
(第十八期生)
(東京海上火災保険)



私は、八十七年に大学を卒業し同年四月に損害保険会社の東京海上火災保険(株)というところ就職しました。内定を頂くまで損保の仕事が何なのかも知らなかったというお粗末なものでした。

入社してすぐに三重県の桑名市勤務を命ぜられその後北九州(ここで結婚しました)・前橋(ここで長女が生まれました)・広島と転勤し、現在は東京勤務をして一年になります。私は、入社以来十七年間自動車保険を中心に火災保険や生命保険まで保険と名のつくもの全てを代理店さんと一緒にお客様にお勧めすることや、万が一の際に如何にお役に立てるかといったことは、非常に難しく今でも私自身は発展途上です。しかし同時に損保

事業は、ある種の達成感・使命感を私に与えてくれます。

保険の自由化は思いの外厳しく、会社としても個人としても生き残っていくのは容易ではありません。しかし、一流のサラリーマンとなるべく、その完成型を目指して日々精進していく所存です。

最後に私が今あるのも母校育英高校の恩師の皆さんや同窓生の諸君のおかげと拙稿を考えながら改めて感謝しています。高校・大学の若い頃は、そうしたことに気づかず不遜な発言や態度を繰り返していたことを思い出すと穴があつたら何とやら心境です。

日々発見のある楽しい毎日

上島 明子
(第二十八期生)
(板倉中学校教諭)

「おはようございますー」私の一日は、毎朝子供たちとの間で交わされるこの言葉から始まる。



初めて中学校に赴任する時、期待に胸膨らませる反面、不安も多少あつた。しかし、その不安は様々な人との出会いによってかき消された。なぜなら、私には助けが必要な時、必ず手をさしのべてくれる職場の人々がいたし、元気いっぱいの笑顔で勇気づけてくれる多くの子どもたちがいたからだ。また、子どもたちの良い所を伸ばしていこうと協力してくれる保護者の方々と

もたくさん知り合えた。地元に帰れば、家族や心を許しあえる学生時代の友人がいつも私の心の支えとなつてくれた。

現在私は一年生を担任している。みんな中学校に夢と希望を持ってやってきた素直で明るい子どもたちばかりだ。一人一人が素晴らしい個性を持っている。どの子も無限の可能性を秘めている。

いる。そのため、子どもの柔軟な発想に驚かされ、日々発見のある楽しい毎日を送っている。

授業や学級経営、生徒指導に部活動など、非常に忙しくはあるが、大変充実している。こうしたやりがいのある仕事に就け、元気に毎日を過ごすことができると、周りの人々のおかげである。人間一人では生きていけない。だから、他人を思いやる気持ちを忘れず、自分自身を大切にしたい。また、これからも笑顔の素敵な子どもたちと共に、何事も「明るく前向きに」をモットーとして、一歩ずつ前へ進んでいきたい、そう思っている。

箱根駅伝メンバー入りまで頑張った

橋本 智之
(第三十一期生)
(埼玉県警察警備部 機動隊)



気が付けば育英を卒業して七年が過ぎました。それでは近況報告ということですが、私が育英を卒業してから現在まで紹介させていただきます。育英を卒業して一年間代々木ゼミナール

で浪人生活を送り、早稲田大学社会科学部に入学しました。早稲田大学時代には、東京箱根間往復大学駅伝競走、通称箱根駅伝出場に向けて毎日練習していました。練習は当初想像以上にきつく全然歯が立たなかつたのですが、目立った怪我をする事もなくこつこつ練習を続ける事が出来、四年生の時には、出場メンバーに入ることが出来ました。残念ながら本番に走ることは出来ませんでした。メンバー入りまで頑張れたという事は一生の財産として残ると思えます。またいい仲間にも恵まれ、先に行われた世界陸上の男子マラソンに日本代表として出場した同期の佐藤敦之君の頑張りを

見るとこちらも励まされる思いです。皆さん、佐藤敦之君をテレビで見ましたら応援してください。早稲田大学を卒業後、埼玉県警察に入りました。六ヶ月間警察学校で教養を受けた後、川越警察署に配属となりました。川越警察署では、交番勤務を一年、留置管理課で看守を六ヶ月間勤めました。交番勤務では警察のありとあらゆる業務を受け持ちましたが、強盗事件の現場に急行したときの興奮は今でも鮮明に覚えています。そして今年の四月で機動隊に異動になりました。仕事にも慣れてきましたのでみんなと会って昔話に花を咲かせたいですね。

【同窓会事務局より】

同窓会名簿は五年毎に改訂版を発行しており、卒業生皆様の消息や情報提供が名簿発行の主たる使命と認識しております。しかし昨今のプライバシーの保護に関するこの件に背中合せしており、皆様のご意見や色々の苦情もお聞きしています。そこで卒業生の皆様に確認願いたいのですが、最近本校同窓会事務局の者ですが、とったり、皆様の住所・連絡先を聞く輩が居て卒業生の父母や本人から問い合わせが最近多くなっております。が、事務局としてはこの様なアクションは起こしておりませんので再確認下さい。(返答しない) 又同窓会名簿発行による住所確認作業は「NTTビジネスサポート」のみに委託しておりますので他業者からの問い合わせには応じないで下さい。(次回平成二十年発行です)この様な次第ですのでご理解下さい。お仕事に勉強にご活躍の日々と思っております。皆様のご健闘をお祈りしております。

後援会だより

今年の夏は、雨が多く涼しいと思っていたら、秋口になっての猛暑、体調もおかしくなりがちですが、皆様にはいかががお過ごしですか。

日本の経済も、多少変化の兆しは有っても、まだまだ苦しい状況の中にあります。失業率も好転せず、特に高校生の就職は一段と厳しいものがあります。報道によりますと、高校生への求人はい割程度で、十代〜二十代の失業者(職を求めている



前橋育英高等学校 後援会長

前田 勇

厳しさの中にも 明るさを。

が職に就けない人)約百万人、無業者(もともと職に就こうとしない人)が百万人、さらにフリーター二百万人以上と言われています。何か見通しの暗い話になってし

さらに、卒業生の大半を占める大学進学者については、三年間の勉学の成果を十分に反映した成績となっているようです。勿論、スポーツ面では今や育英抜きに県内の高校スポーツは語

まいました。そんな中、群馬における高校生への求人は全国平均を大中に上回っており、特にこれまでの育英高校生の就職内定率は抜群のがあります。

れないでしょう。高校総体での男子総合連続優勝、サッカー・陸上・水泳陣は全国レベルです。近年硬式野球部の活躍も注目されているところで、学校としても、こういった生徒諸君の活躍に励むべく、この夏校舎の全面改装と、南校舎にIT教室を設置するなど、財政厳しい中頑張ってくれてます。

後援会としても、育英生がクラブに勉学により一層打ち込める環境を整えるため、学校と共に精一杯の応援・支援をしていきたいと考えています。後援会員諸君のご理解・ご協力をお願いいたします。

いち早く環境問題にとりくむ「育英」

育英高校クラブ用大型バスのディーゼル車排ガス規制による触媒装置装着経費に後援会から補助

環境問題は深刻化の一途をたどっています。地球の温暖化やオゾン層の破壊という宇宙規模の問題から、毎日吸っている空気、大気汚染、樹木や野菜などに悪影響を与える酸性雨被害など、私たちの日常生活の在り

方が今問われてきています。特に、大都市における空気の汚染の原因である車(中でもディーゼル車)の排気ガスは、呼吸器系発がんのリスクやぜんそく、花粉症、光化学スモッグなどの要因となり、新たな対策が

急務とされています。

中央環境審議会では、平成十六年度中をめどに、粒子状物質(PM)などの新規規制を固め、平成十九年にはディーゼル車排ガス規制の強化への方向を示しています。既に、東京・埼玉・千葉・神奈川では、本年十月一日からディーゼル車の走行規制が始まっています。各県の条例では、定められた排出基準を満たさない商用ディーゼル車は、各県内に乗り入れることができなくなりました。

こういった状況を踏まえて、

平成十五年度・後援会総会開く。

新役員体制決まる

今年度の定期総会は七月十五日(火)にウエルシテイ前橋で開催されました。

時あたかも、夏の甲子園出場をかけた高校野球県大会が始まり、育英野球部への期待の高まりの中、総会は和気藹々と進められました。事業計画では、各クラブへの活動援助金を全体で四十五万増額、七百万円としました。

役員改選では、今年度保護者会本部役員の方々を本年度役員として承認・運営委員と併せ左記のとおり決定されました。

役員改選について

会則 第一条(役員任期) 役員任期は一年とし再選は防げない。
会則 第二二条 役員選任は役員会に於いて承認を得るものとする。
一、本年度役員(敬称略)

後援会・同窓会・保護者会 合同の

今年度の研修旅行決まる

11月7日(金)~8日(土)

千葉・八千代松陰高校へ。

※宿泊先 千倉町(外房線) ふるってご参加下さい。

- | | |
|----------------|--|
| 会長 | 前田 勇 |
| 副会長 | 佐田 知宏 |
| 常任理事 | 鈴木 美恵子 他(5) |
| 理事 | 生井均 他(5) |
| 監査 | 駒田 幸雄 |
| 会計 | 立見 悟 |
| 運営委員(会長および副会長) | 前田 勇、秋間良憲、田中公正、瀬下元雄、佐伯詔一、狩野謙一、田村和彦、星野信次、小池静男、浅田千秋、笹澤智治、斎藤 隆、福井 久、福島英人、狩野浩志、佐田知宏、城田博己(常任理事) |
| 合同紙広報委員 | 以上十七人 |
| 保護者会 | 山口 孝子(文化委員長) |
| 同窓会 | 吉田 幸一(副会長) |
| 後援会 | 城田 博己(常務理事) |
| 学園 | 中村 正人(総務課長) |
| 高校 | 佐藤泰一郎(教頭) |
| | 根岸 豊年(事務長) |